横浜市立大学学術情報センター

貴重書
月替わり展覧会リーフレット
（151）

2024 年 4 月の作品は

『杉田図會』

―『杉田図會』から金沢八景を見る―

展示テーマ

～『杉田図會』から連想する金沢八景の伝承～

ここ横浜市立大学がある金沢八景。金沢八景駅等に現在の地名の由来となった８つの景色が書かれているが、それらはいつ、どこで誰が決めた８つの景色なのか。知らない人も多いのではないだろうか。今回私が調査した『杉田図會』には金沢八景の描写が多く記されていた。そこで今回は金沢八景の歴史を探り、金沢八景がどのように『杉田図會』に書かれるようになったのか、現在までどのように伝承されてきたのかを見ていく。

『杉田図會』（１冊）

江戸時代　文政８（1825）年

作者：竹村立義（生存期不明）

版元：西荘文庫

縦 26.7cm × 横 18.4cm

本書は、江戸に居住する俳人の竹村立義が、品川から現在の神奈川県横浜市磯子区杉田にある梅林を目的地として旅をした際の記録である。本大学では『杉田図會』という外題で残されているが、『高尾山老山記』として残されている史料もある。また、本書は写本によって残されている。版本とは異なり、実際に一字一字書かれている点は注目すべき点であろう。図１、図２は『杉田図會』に書かれている金沢八景の和歌である。これらの和歌は続けて書かれているのにも関わらず、各和歌によって字の丁寧度合いが異なっている。これも写本ならではの味であろう。

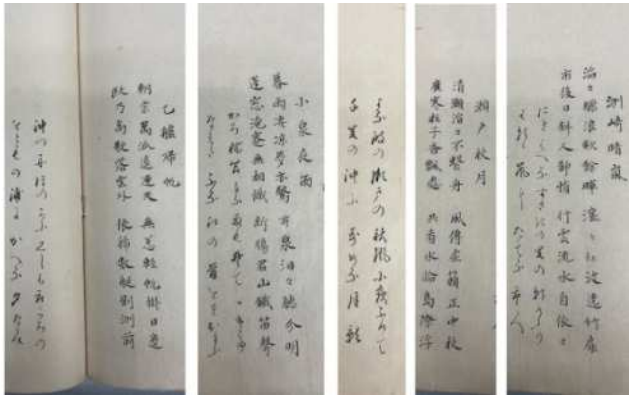

図１『杉田図會』記載　金沢八景和歌①

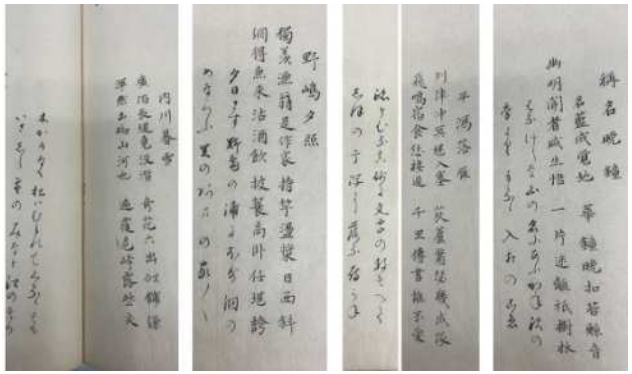

図２『杉田図會』記載　金沢八景和歌②

作者の竹村立義は「独笑庵立義」「竹村潮橋」等の別名を持ち、『御岳山石山紀行』『河越松山記』『秩父順拝図絵』等、数々の紀行文が現存している。

本書は上・中・下の全３巻からなっており、それぞれ以下の場所が書かれている。

- 上巻：品川～帷子
- 中巻：保土ヶ谷（程ヶ谷）～金沢八景
- 下巻：金沢八景（称名寺）～金沢文庫

目的地であった杉田の梅林は中巻に記載されている。杉田の梅林は、天正年間に杉田村一帯の領主であった間宮信繁が梅を植林したことから始まったとされている。江戸時代後期ごろから書物での紹介が増えたことで文人墨客の訪問が増えた。その様子は初代歌川広重「武州杉田の梅林」に描かれている。

本書は目的地が杉田であったにも関わらず、杉田の梅林の風景以上に金沢八景について触れられている点が興味深い。本書で金沢八景について触れられているのは中巻末から下巻までと多くの範囲を占めている（杉田が約 33 ページ、金沢八景が約 68 ページ）。

展示のみどころ

～現在の「金沢八景」の誕生・伝承そして衰退～

本書では「金沢八景」として広まる要因となった和歌（図１、図２）や金沢八景を一望した絵（図３）が記載されている。そこで、金沢八景の歴史を調べるとともにそこから本書が書かれるようになった際の金沢八景について深掘りしていく。

そもそも「八景」とまとめる考え方は中国の「瀟湘（しょうしょう）八景」が由来である。「瀟湘八景」とは、現在の中国湖南省にある平沙落雁、遠浦帰帆、山市晴嵐、江天暮雪、洞庭秋月、瀟湘夜雨、煙寺晩鐘、漁村夕照の美しい８か所の景色のことで、「瀟湘八景」にちなんで。鎌倉時代末期より現在の金沢八景のあたりは「瀟湘八景」にならって生まれた「杭州八景」に似ていると感じられていたようである。西岡によると、鎌倉時代末期に来日した禅僧の清拙正澄(1274-1339)が六浦を詠んだ詩に『浙江亭上疑似多し』と記されていることから、日本にいながら中国を偲ぶことができる場所であったと考えられる。また、現在の金沢八景の景色に「瀟湘八景」を見立てるのは鎌倉五山の禅僧によって始められたと考えられていた。しかしながらかつては「金沢八景」の比定地が流動的であり、現在の「金沢八景」の８つの景色となったのは元禄７（1694）年に心越禅師(1637-1695)が詠んだ漢詩が基になっているとされている。『杉田図會』にも書かれている和歌は元禄 16（1703）年に当時旗本であった京極高門(1658-1721)が、心越禅師が読んだ漢詩をもとに詠んだものである。京極高門の詠んだ和歌が広まり、現在の洲崎晴嵐、瀬戸秋月、小泉夜雨、乙舳帰帆、称名晩鐘、平潟落雁、野島夕照、内川暮雪を８つの美しい景色としてまとめ、「金沢八景」となった。京極高門が金沢八景を詠んでから『杉田図會』が書かれるまで、約 120 年程である。鎌倉時代末期より金沢八景の美しさが着目され、比定地は変わりながらも金沢八景が残されてきたところから、当時の住民たちが金沢八景の景観を大切にし、受け継ごうとしていたことがうかがえる。

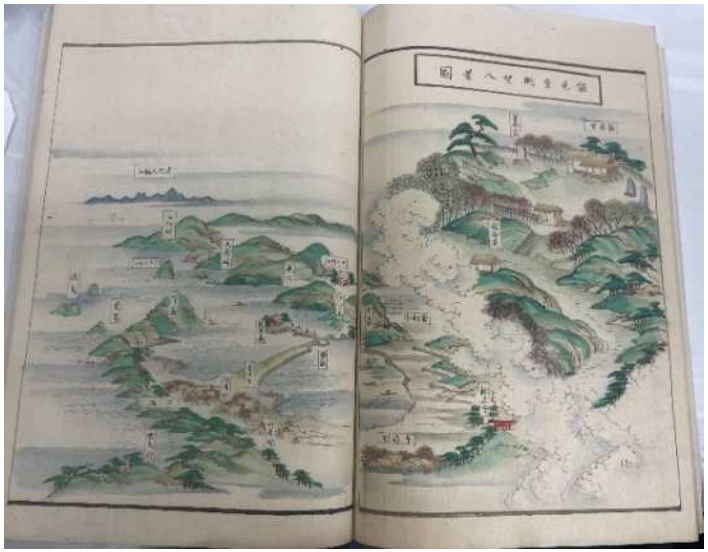

図３　『杉田図會』記載　「能見堂眺望八景図」

しかし、現在には「金沢八景」は残されていない。図１は本書中巻に記されている金沢八景周辺を一望した図である。この地形は現在とは異なっている。近代に入ってから金沢八景周辺は土地の埋め立て事業が相次いだことで海岸線が遠ざかってしまった。江戸時代から大切にされてきた景観ははかなく消えてしまったのだ。

参考文献

・神奈川県立金沢文庫(2012)『特別展金澤八景いま昔～初公開　楠山永雄コレクション』神奈川県立金沢文庫.
・金沢区生涯学習”わ”の会　かねざわの歴史事典編集委員会(2013)『新版かねざわの歴史事典』金沢区生涯学習”わ”の会
・横浜市「沼亀新田と沿岸部埋め立て」横浜市 金沢区総務部地域振興課. https://www.city.yokohama.lg.jp/kanazawa/shokai/rekishi/ikizuku/keikan/deiki.html（最終閲覧日：2023 年 11 月７日）
・国立公文書館デジタルアーカイブ「高尾山石老山記」国立公文書館. https://www.digital.archives.go.jp/file/1231432（最終閲覧日：2023 年 11 月１日）
・NPO 法人金沢シティガイド協会ホームページ「広重の金沢八景」NPO 法人金沢シティガイド協会. https://yokokanaguide.org/wp-content/uploads/2013/02/11_hirosige.pdf(最終閲覧日：2023 年 11 月１日）
・杉田梅まつりホームページ「杉田梅まつりとは」 幻の杉田梅林賑わい復興“梅のまち杉田”実行委員会. https://shunsaika.yokohama/lp/umematsuri（最終閲覧日：2023 年 11 月１日）

あとがき　～貴重資料に触れて～

貴重書を自分の手で動かすことに胸を高鳴らせながらも貴重書に傷つけてしまうのではないかという恐怖と緊張感を持ちつつ貴重書を手に取った。史料独特の写本による字の違いや虫食いを確認し、数百年前から大切に扱われてきた証を実感できた。

※コレクションの閲覧は、作品保護のため、展示品を除き申請が必要です。また利用は学術研究目的に限らせていただいております。
※過去の展示はオンラインでも公開中です！

令和６年４月１日発行
令和５年度日本文化論Ａ受講生 編集
236-0027　横浜市金沢区瀬戸 22-2
横浜市立大学　学術情報センター

第 152 回展示は令和６年５月上旬からを予定しています。